

足元の個人消費は物価高で鈍い動き 先行きの輸出売上高は減少の見込み



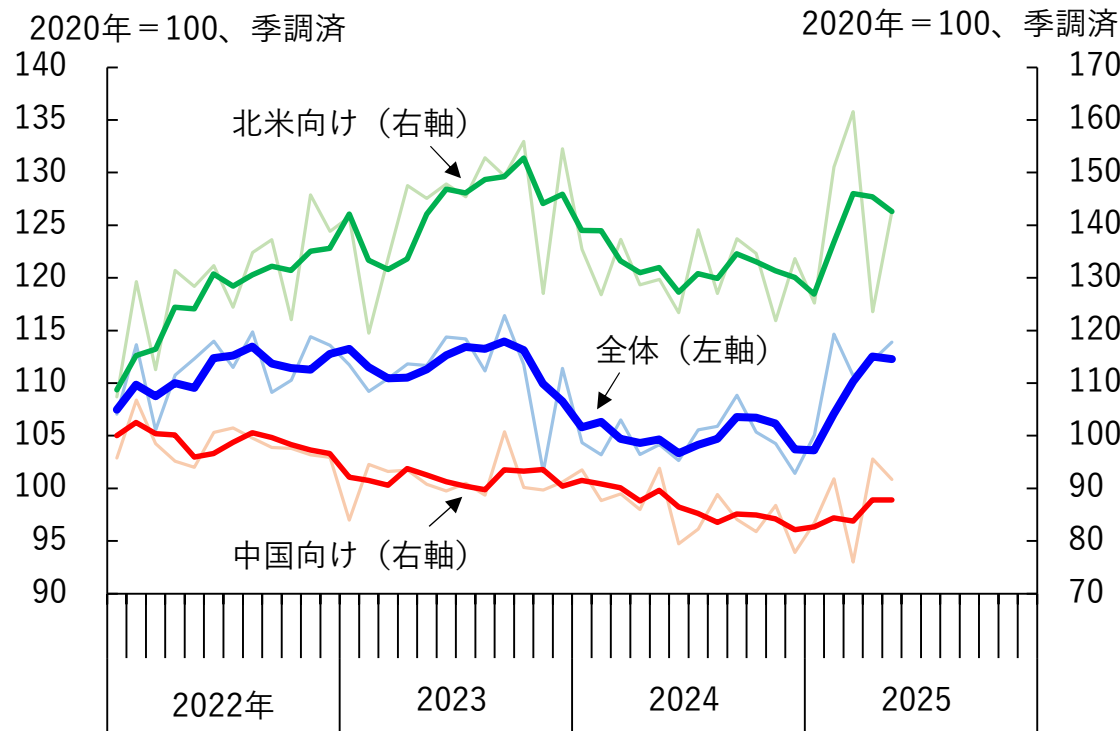
神奈川県内景気

- 5月の財輸出は、数量ベースでは特段の変化はみられない。4月のインバウンド消費は急増した。イースター（復活祭）休暇に合わせて、欧米からの訪日客が増加したとみられる。
- 県内企業の2025年度の設備投資計画は前年比増加を維持した。業績計画については、製造業の輸出売上高計画が急減しており、トランプ関税の影響が表れ始めた。
- 4月の実質賃金（家計の購買力）は、前年を下回る状況が続いた。
- 5月の個人消費は、横ばい圏で推移した。食料品価格の高騰により物価上昇率が高止まりしていることが、消費の重荷となっている。

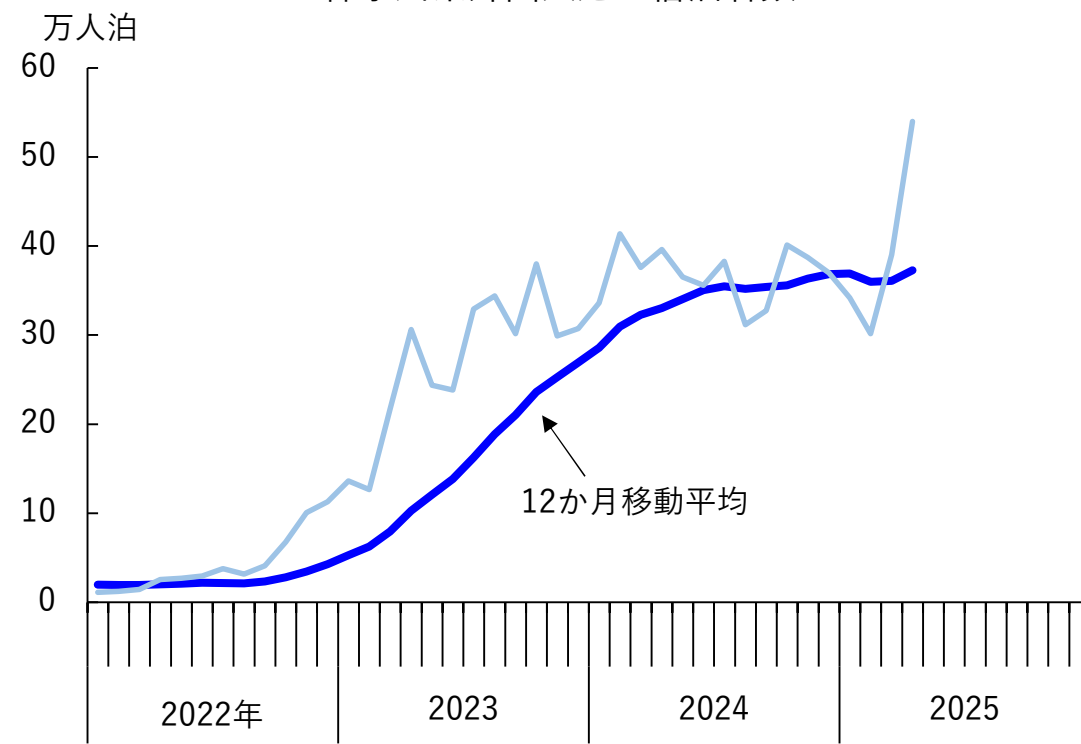


- 財輸出は、数量ベースでは、5月時点で特段の変化はみられない。神奈川3港（横浜港、川崎港、横須賀港）の5月の実質（≡数量ベース）輸出は、前月比+1.5%であった。ただし、金額ベースでみると、米国政府による追加関税発動を受けて、自動車は価格を引き下げて輸出しているとみられ、米国向け自動車の輸出金額は前年比-11.5%と減少した。
- インバウンド消費は、単月で大幅に増加した。4月の外国人延べ宿泊者数は前年比+36.3%となった。イースター（復活祭）休暇に合わせて欧米からの訪日客が増加したことなど、一時的な要因が影響したとみられる。

神奈川3港実質輸出額指数（仕向地別）



神奈川県外国人延べ宿泊者数



出所：観光庁「宿泊旅行統計」

注1：細線は単月、太線は3か月移動平均の値。

注2：季節調整は当社で施した。2020年 = 100として指数化した。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より浜銀総研作成

- 日本銀行横浜支店の「短観（2025年6月調査、神奈川県分）」によると、県内企業（全産業）の2025年度の設備投資計画は前年比+13.0%となった。業種別では、製造業が前年同月調査時点の24年度計画を上回った一方、非製造業は下回った。
- 業績計画についてみると、25年度の非製造業の経常利益計画は減益の見通し。また、製造業は増益計画を維持したものの、24年度比で減速の見込み。製造業では、輸出売上高の急減が予想されており、トランプ関税の影響が徐々に表れ始めた。
- 仕入価格判断DIは、製造業が3月調査比で6%ポイント下落した一方、非製造業は2%ポイント上昇した。非製造業では、仕入コストの上昇が業績を下押ししており、設備投資に慎重な姿勢がみられる。

設備投資（神奈川県）

仕入価格判断DIと販売価格判断DI（神奈川県）

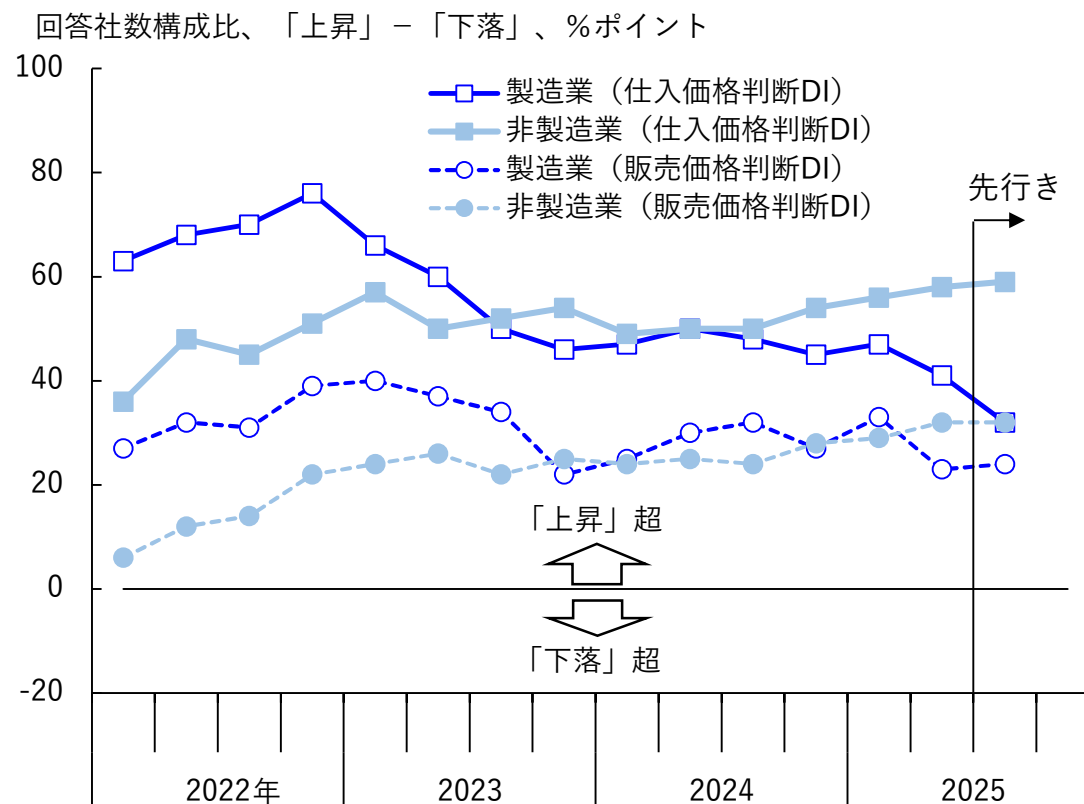
	22年度	23年度	24年度		25年度
	実績	実績	実績	24年6月調査計画	計画
全産業	7.6	17.9	6.8	10.3	13.0
製造業	10.9	17.6	6.0	8.1	16.4
非製造業	▲ 1.6	19.2	9.6	19.1	1.1

注：ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資額）。

経常利益（神奈川県）

	22年度	23年度	24年度	25年度
	実績	実績	実績	計画
全産業	9.7	11.0	11.5	▲ 4.4
製造業	11.6	12.5	13.4	5.3
非製造業	7.7	9.3	9.5	▲ 15.5

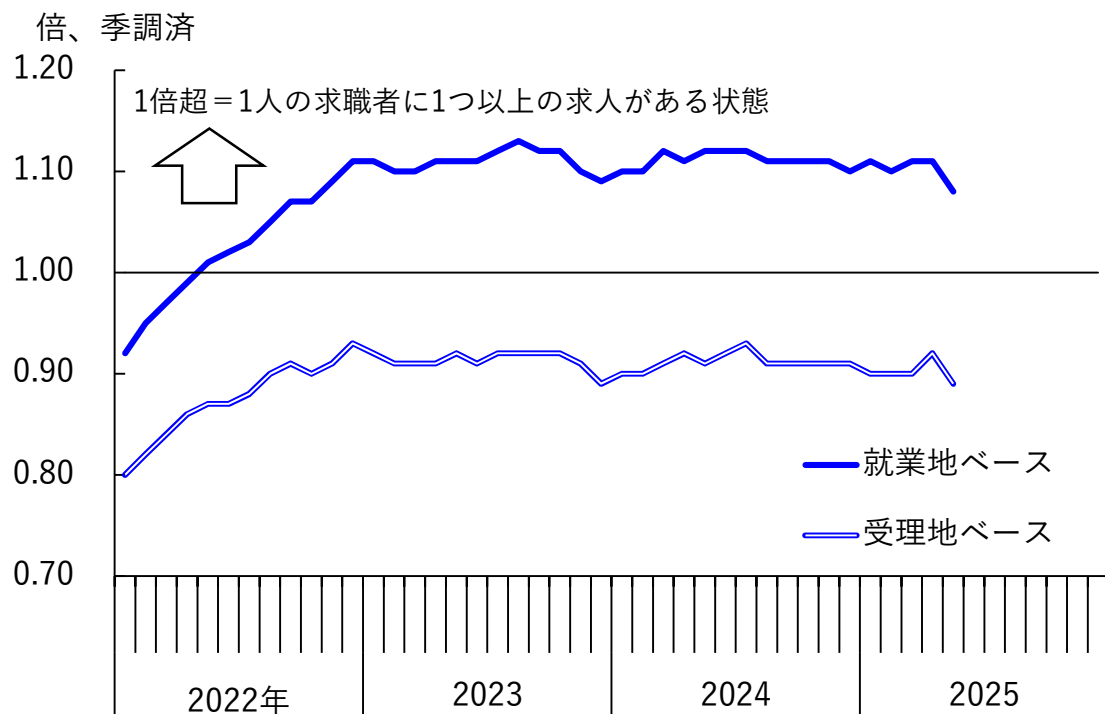
出所：日本銀行横浜支店「短観（神奈川県分）」



出所：日本銀行横浜支店「短観（神奈川県分）」

- 県内の雇用情勢は横ばい圏で推移した。5月の神奈川県の有効求人倍率（就業地ベース）は1.08倍と、引き続き1倍を上回っている。ただし、新規求人数が前年を下回る業種が多くなっており、労働需給のひっ迫度合いが弱まる兆し。
- 家計の購買力を示す実質賃金（事業所規模5人以上）は4月に前年比-3.3%と、9か月連続の前年割れ。もっとも、名目所定内給与（給与明細上の基本給に相当）をみると、事業所規模5人以上で同+1.4%、30人以上では同+3.0%の上昇と、基本給の上昇傾向は続いている。

神奈川県の有効求人倍率

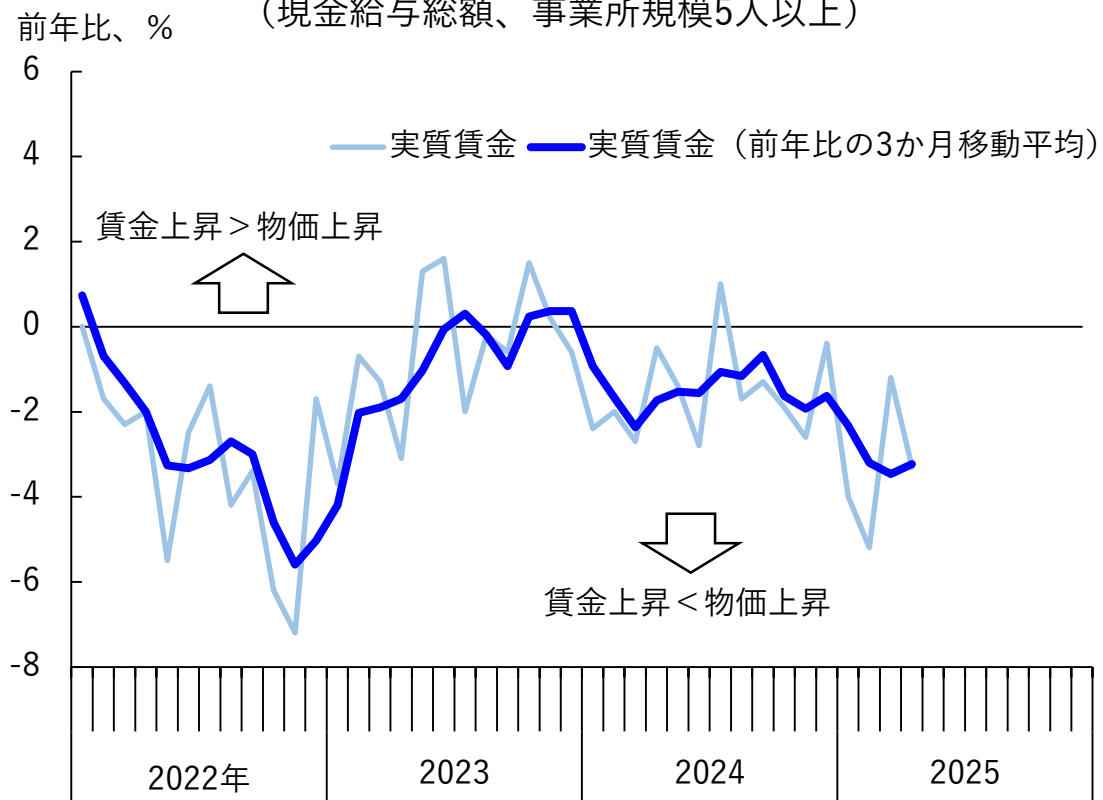


注：受理地ベースは、神奈川県内で受理した求人票をベースとした集計。就業地ベースは、実際に神奈川県内に就業する求人をベースとした集計。

出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」、神奈川労働局「労働市場速報」

神奈川県の実質賃金

（現金給与総額、事業所規模5人以上）



出所：神奈川県「毎月勤労統計調査地方調査」より浜銀総研作成

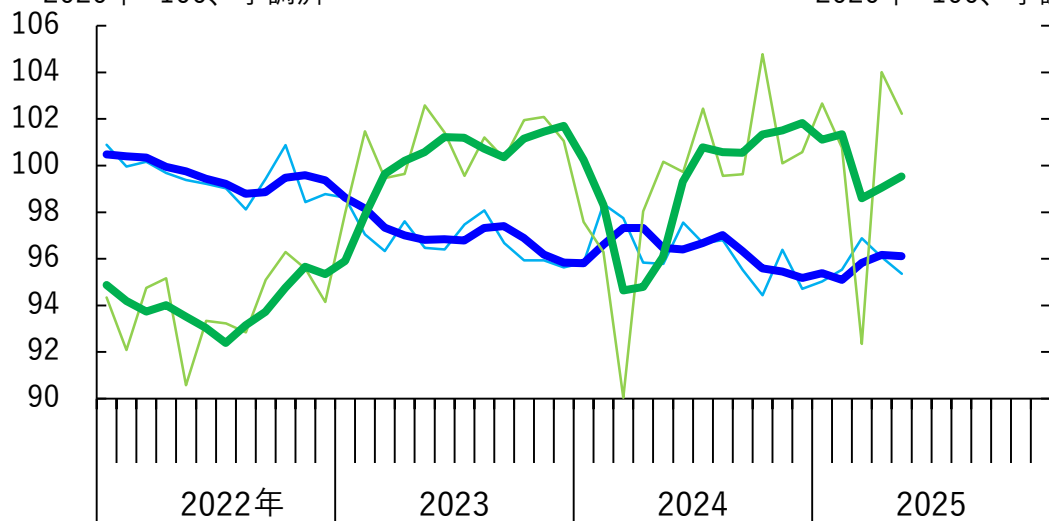
- 5月の横浜市の消費者物価指数（総合、前年比）は前年比+3.2%となった。穀類が同+32.3%、肉類も同+10.7%と高い伸びを示した。食料品価格の高騰が物価全体を押し上げている。
- 高い物価上昇率が続いており、個人消費の動きは鈍い。まず、5月のサービス消費は横ばい圏で推移した模様。同月の内閣府「景気ウォッチャー調査（南関東）」では、「物価高が続いており、消費行動が控えめになってきている」とのレジャー施設のコメントがあった。
- 財消費も横ばい。5月の小売業実質（≒数量ベース）販売額は前月比-0.7%と伸び悩んだ。「景気ウォッチャー調査（南関東）」では、「単価の上昇傾向の継続から、生活防衛意識がまだ強く、販売数、来客数は低調である」とのスーパーのコメントがあった。

神奈川県の小売業実質販売額と乗用車販売台数

■ 小売業実質販売額（3か月移動平均、左軸） ■ 小売業実質販売額（左軸）
■ 乗用車販売台数（3か月移動平均、右軸） ■ 乗用車販売台数（右軸）

2020年=100、季調済

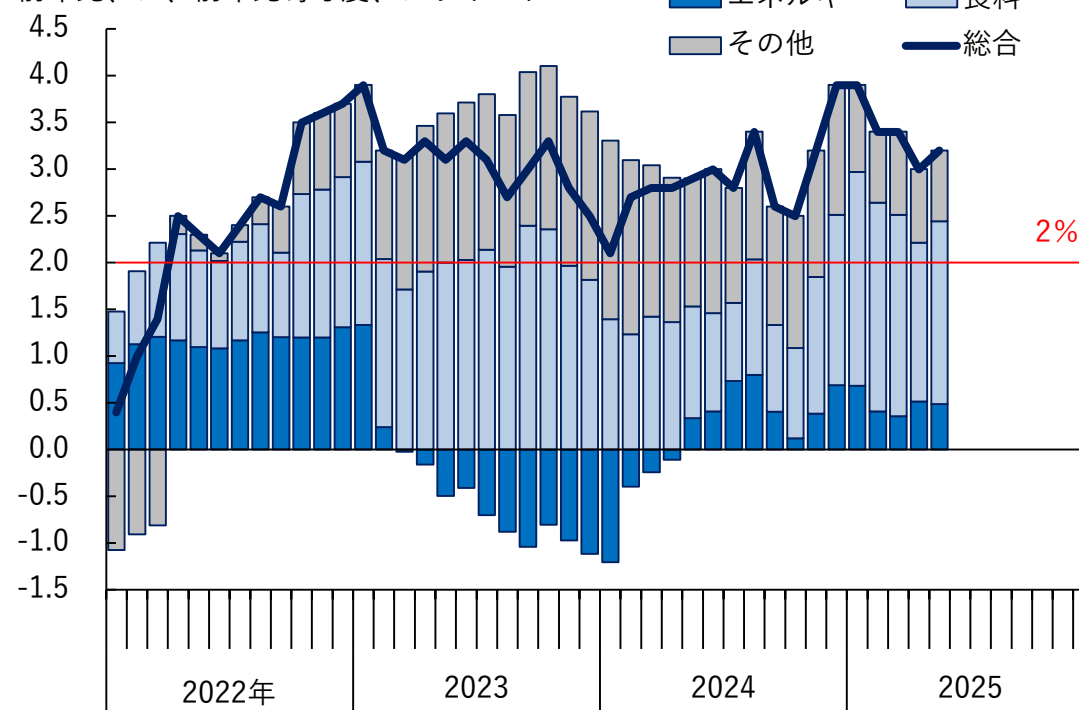
2020年=100、季調済



横浜市消費者物価指数（総合）

前年比、%、前年比寄与度、%ポイント

■ エネルギー ■ 食料
■ その他 ■ 総合



注：その他は総合からエネルギー、食料を差し引いた残差。

出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成

注：小売業実質販売額は、横浜市の消費者物価指数を用いて、概ね財価格の指数となるようにデフレーターを作成し、実質化した。なお、販売額は、百貨店、スーパー、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニエンスストアの店舗調整前の合計値。また、季節調整は当社で施した。

出所：経済産業省「商業動態統計」、神奈川県自動車販売店協会資料、全国軽自動車協会連合会資料、総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成



浜銀総合研究所



調査部 研究員補
井町 淳哉

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5